# 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇1月8日～

先週は株価の急上昇がすごい勢いでした。
日経平均は25500円を超えてきました。昨年は34000円を超えることができなかったので、高値を1500円以上更新し、36000円に迫る動きです。
先週末が日経平均先物オプションのSQ（特別清算指数）の決済日だったことで、仕掛け的な動きもあったのかもしれませんが日本株だけでなく、米国株も堅調な動きとなっています。
また、先週は 11 個のビットコインETFがSEC（米国の証券取引委員会）に正式に承認されたことで、暗号資産関連も上昇が続いています。
為替相場は、株に比べると地味な動きですが週足でも陽線となり、年明けから順調にドル／円は上昇しています。今週もこの流れが続くかどうかに注目したいです。
米国では先週、消費者物価指数や卸売物価指数が発表されましたが春以降の利下げ予測は根強く、株価の下支え要因にもなっています。
15日は、米国が祝日（キング牧師生誕記念日）となっています。
また、15 日からダボス会議（世界経済フォーラムの年次総会）も始まり、ウクライナ、ガザなどの地政学的リスクだけでなく、各国の中央銀行の政策、債務問題なども議題にのぼっています。
日本は、地震に加えて、先週発表された毎月勤労統計調査で実質賃金が減少し続けていることがわかり、金融政策の変更は先延ばしになるとの予想が増えています。
これらの要因から日本株高、円安に動きやすい状況が続く可能性があります。
ただし、やや急ピッチで株が上昇しているため調整がいつ入ってもおかしくない状況でもあります。
先週の強い動きの反動が今週来る可能性もあるので、株の調整でリスク回避的な動きが出ることに警戒しながら、慎重にトレードしていきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

先週のドル／円は 146 円台の高値を木曜につけた後は、少し下げて、144 円台後半で取引を終えました。
年初につけた 140 円台の安値から見ると順調に上昇しています。
先週の高値を超えて、146.5 円のせとなると次は 147 円台前半の抵抗が意識されます。
ここも超えてくると148円あたりまで値を伸ばす可能性があります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

# 今週の相場はどうなる？

株に比べて為替相場はそれほど勢いがないので、1 円、2 円程度の利益をしっかり確保しながら、焦らずに売買していきたいです。
下値は、先週安値の143．8円あたりを維持できれば堅調な動きが期待できそうです。
ここを割り込むと 142 円あたりまでの下落は想定しておきたいです。
143－146 円程度のレートを意識しながら、トレードしたいです。

＜気になるクロス円＞

クロス円も年明けから高値更新を続けているペアが多く、高値更新が続くかどうかに注目したいです。ただし、株価に連動しやすい性質があるため日本株が大きく売られるような動きが出るとクロス円も崩れやすくなります。
今週は、先週強い動きが続いた反動で株価が下がるリスクもあり、株価動向も合わせて見ていきたいです。
ユーロは先週 160 円あたりまで値を伸ばしており、再度 160 円を超えてくると、中期的には昨年 11 月高値の 164 円台を目指す動きが出る可能性があります。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では11月機械受注、12月全国消費者物価指数などがあります。
米国では1月ニューヨーク連銀製造業景気指数、12月小売売上高、12月鉱工業生産、1月NAHB住宅市場指数、米地区連銀経済報告（ベージュブック）、12月住宅着工件数、前週分新規失業保険申請件数、1月ミシガン大学消費者信頼感指数、12月中古住宅販売件数、11月対米証券投資などが発表されます。
欧州ではユーロ圏とドイツで12月消費者物価指数、1月ZEW景況感調査、ユーロ圏で11月鉱工業生産、ラガルド・ECB総裁発言、欧州中央銀行（ECB）理事会議事要旨などがあります。
ほかには、中国で10－12月期GDP、カナダと英国で12月消費者物価指数の発表などがあります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved